

人文社会科学部文化創生課程（中一種「国語」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	最低修得 単位数	備考および修得方法
国語学 (音声言語及び文章表現 に関するものを含む。)	○日本語学 ○日本語学演習Ⅰ 日本語学演習Ⅱ	2 2 2	4	・科目名の前に「○」があ る科目は「必修科目」とな ります。  必修科目のうち、書道Ⅰは <u>中一種のみ必修科目</u> です。
国文学 (国文学史を含む。)	○日本古典文学 ○日本近現代文学 ○文学と文化 ○民俗学 ○日本古典文学演習Ⅰ 日本古典文学演習Ⅱ ○日本近現代文学演習Ⅰ 日本近現代文学演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2	12	・修得すべき単位数につい ては、下記「☆」印の部分 を参考にしてください。
漢文学	○東アジア文学演習Ⅰ 東アジア文学演習Ⅱ ○東アジア文化と文学 東アジア文学論	2 2 2 2	4	
書道 (書写を中心とする。)	○書道Ⅰ	2	2	
各教科の指導法（情報通 信技術の活用含む。)	○国語科教育法 ○国語科授業論 ○国語科教材論 ○国語科教育方法論	2 2 2 2	8	
合 計			28単位 以上	←この他、さらに3単位以上を修 得して「大学が独自に設定する科 目」の単位数に充てる必要がある ので注意してください。

☆中学校の免許状取得を目指す場合、別表第10の必修科目の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む31単位以上の単位修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。

人文社会科学部文化創生課程（高一種「国語」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	最低修得 単 位 数	備考および修得方法
国語学 (音声言語及び文章表現 に関するものを含む。)	○日本語学 ○日本語学演習Ⅰ 日本語学演習Ⅱ	2 2 2	4	・科目名の前に「○」があ る科目は「必修科目」とな ります。  ・書道Ⅰは中一種「国語」 のみの必修科目です。書道 Ⅰの単位は高一種「国語」 ではカウントされないので 注意してください。  ・修得すべき単位数につい ては、下記「☆」印の部分 を参考にしてください。
国文学 (国文学史を含む。)	○日本古典文学 ○日本近現代文学 ○文学と文化 ○民俗学 ○日本古典文学演習Ⅰ 日本古典文学演習Ⅱ ○日本近現代文学演習Ⅰ 日本近現代文学演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2	12	
漢文学	○東アジア文学演習Ⅰ 東アジア文学演習Ⅱ ○東アジア文化と文学 東アジア文学論	2 2 2 2	4	
各教科の指導法（情報通 信技術の活用含む。)	○国語科教育法 ○国語科授業論 国語科教材論 国語科教育方法論	2 2 2 2	4	
合 計			24単位 以上	←この他、さらに11単位以上を 修得して「大学が独自に設定する 科目」の単位数に充てる必要があ るので注意してください。

☆高等学校の免許状のみ取得を目指す場合、別表第10の必修科目の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む35単位以上の修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。

[「道徳の歴史と方法」について]

「道徳の歴史と方法」の単位は、高一種免許状では「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てることができず。

人文社会科学部文化創生課程（中一種「社会」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	最低修得 単 位 数	備考および修得方法
日本史及び外国史	○日本史 ○中国史 ○西洋史 ○ユーラシア史 民俗と文化 文化財論 日本考古学 西洋考古学	2 2 2 2 2 2 2 2	8	<p>・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。</p> <p>・科目名の前に「●」がある「地誌A」および「地誌B」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。</p>
地理学（地誌を含む。）	○人文地理A ○人文地理B ○自然地理A ○自然地理B ●地誌A ●地誌B	2 2 2 2 2 2	10	
「法学，政治学」	○公法学 ○私法学 行政学 憲法 民法	2 2 2 2 2	4	
「社会学，経済学」	○社会学 ○ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ ○マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ 社会心理学	2 2 2 2 2 2	6	
「哲学，倫理学，宗 教学」	○思想と文化 ○日本倫理思想 西洋倫理思想 東アジア思想 日本倫理思想演習Ⅰ 日本倫理思想演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2	4	
各教科の指導法（情報通 信技術の活用含む。）	○社会科教育法 ○社会科授業論 ○社会科授業構成論Ⅰ ○社会科授業構成論Ⅱ	2 2 2 2	8	
合 計			28単位 以上	

※必修科目を含み28単位以上を修得してください。ただし、必修科目のみ修得の場合でも40単位修得となり、別表第10の必修科目を含む所要単位数59単位以上を修得できるような設定になっています。

人文社会科学部社会経営課程（中一種「社会」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	最低修得 単 位 数	備考および修得方法	
日本史及び外国史	○日本史 ○中国史 ○西洋史 ○ユーラシア史 民俗と文化 文化財論 日本考古学 西洋考古学	2 2 2 2 2 2 2 2	8	<p>・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。</p> <p>・科目名の前に「●」がある「地域地理学A」および「地域地理学B」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。</p>	
地理学（地誌を含む。）	○基礎地理学A ○基礎地理学B ○環境地理学A ○環境地理学B ●地域地理学A ●地域地理学B	2 2 2 2 2 2	10		
「法学，政治学」	○公法学 ○私法学 行政学 憲法 民法	2 2 2 2 2	4		
「社会学，経済学」	○社会学 ○ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ ○マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ 社会心理学	2 2 2 2 2 2	6		
「哲学，倫理学，宗 教学」	○思想と文化 ○日本倫理思想 西洋倫理思想 東アジア思想 日本倫理思想演習Ⅰ 日本倫理思想演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2	4		
各教科の指導法（情報通 信技術の活用含む。）	○社会科教育法 ○社会科授業論 ○社会科授業構成論Ⅰ ○社会科授業構成論Ⅱ	2 2 2 2	8		
合 計			28単位 以上		←この他、さらに3単位以上を修得して「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる必要があるので注意してください。

※必修科目を含み28単位以上を修得してください。ただし、必修科目のみ修得の場合でも40単位修得となり、別表第10の必修科目を含む所要単位数59単位以上を修得できるような設定になっています。

人文社会科学部文化創生課程（高一種「地理歴史」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	最低修得 単 位 数	備考および修得方法
日本史	○日本史 ○日本考古学 ○文化財論 民俗と文化	2 2 2 2	6	・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。 ・科目名の前に「●」がある「地誌A」および「地誌B」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。
外国史	○中国史 ○西洋史 ○ユーラシア史 ○西洋考古学	2 2 2 2	8	・以下の科目は教育学部開講科目です。 ・自然地理学基礎演習 ・地理学巡検Ⅰ ・地理学巡検Ⅱ
人文地理学及び自然地理学	○人文地理A ○人文地理B ○自然地理A ○自然地理B 自然地理学基礎演習 地理学巡検Ⅰ 地理学巡検Ⅱ	2 2 2 2 2 1 1	8	・社会経営課程の学生は、以下の科目を次のとおり読み替える。 「基礎地理学A」を「人文地理A」に読み替える。 「基礎地理学B」を「人文地理B」に読み替える。 「環境地理学A」を「自然地理A」に読み替える。 「環境地理学B」を「自然地理B」に読み替える。 「地域地理学A」を「地誌A」に読み替える。 「地域地理学B」を「地誌B」に読み替える。
地誌	●地誌A ●地誌B	2 2	2	
各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）	○地理歴史科教育法 ○地理歴史科実践論 社会科教育法 社会科授業論	2 2 2 2	4	・修得すべき単位数については、下記「☆」印の部分を参考にしてください。
合 計			24単位 以上	←この他、さらに11単位以上を修得して「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる必要がありますので注意してください。

☆高等学校の「地理歴史」の免許状のみ取得を目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む35単位以上の修得が必要です。**必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。**

☆中学校「社会」免許状取得を同時に目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む27単位以上の単位修得が必要です。

（社会の必修科目を修得している（地誌はどちらか一方のみを修得していると仮定した）場合、22単位修得済みとなります。他に必要な地歴の必修単位を合わせると32単位となりますので、別表第10の科目と合計すると59単位の必要単位を満たすことができます。）

[「道徳の歴史と方法」について]

「道徳の歴史と方法」の単位は、高一種免許状では「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てるできません。

人文社会科学部社会経営課程（高一種「公民」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	最低修得 単 位 数	備考および修得方法
「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	○公法学 ○私法学 ○憲法 行政学 民法	2 2 2 2 2	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。</li> <li>・科目名の前に「●」がある「西洋倫理思想」、および「東アジア思想」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。</li> <li>・修得すべき単位数については、下記「☆」印の部分をご参考にしてください。</li> </ul>
「社会学，経済学（国際経済学を含む。）」	○社会学 ○マイクロ経済学Ⅰ マイクロ経済学Ⅱ ○マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ 社会心理学	2 2 2 2 2 2	6	
「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	○思想と文化 ○日本倫理思想 ○哲学倫理入門 ●西洋倫理思想 ●東アジア思想 日本倫理思想演習Ⅰ 日本倫理思想演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2	8	
各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）」	○公民科教育法 ○公民科実践論 社会科教育法 社会科授業論	2 2 2 2	4	
合 計			24単位以上	←この他、さらに11単位以上を修得して「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる必要がありますので注意してください。

☆高等学校の「公民」の免許状のみ取得を目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む35単位以上の修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。

☆中学校「社会」免許状取得を同時に目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む29単位以上の単位修得が必要です。

（社会の必修科目を修得している場合、18単位修得済みとなります。他に必要な公民の必修単位を合わせると28単位となるので、合計59単位にするためには、残り3単位以上単位を修得する必要があります。）

[「道徳の歴史と方法」について]

「道徳の歴史と方法」の単位は、高一種免許状では「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てるできません。

人文社会科学部社会経営課程（高一種「商業」）

教科に関する専門的事項	授業科目	履修可能単位数	最低修得単位数	備考および修得方法
商業の関係科目	○経営戦略論 ○ベンチャービジネス論 ○簿記システムⅠ ○簿記システムⅡ ○財務会計Ⅰ ○財務会計Ⅱ ○経営管理論 ○マーケティング論Ⅰ マーケティング論Ⅱ ○グローバル経営論Ⅰ グローバル経営論Ⅱ 経営組織論 企業経営史Ⅰ 企業経営史Ⅱ 原価計算 管理会計 税務会計A 税務会計B 地域データ分析Ⅰ 地域データ分析Ⅱ 現代企業論Ⅰ 現代企業論Ⅱ 社会的企業論	2 2	18	・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。  ・「職業指導Ⅰ」は理工学部開講科目となります。受講する際は履修登録時に人文社会科学部教務担当窓口に出してください。  ・修得すべき単位数については、下記「☆」印の部分をご参考ください。
職業指導	○職業指導	2	2	
各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）	○商業科教育法Ⅰ ○商業科教育法Ⅱ	2 2	4	
合計			24単位以上	←この他、さらに11単位以上を修得して「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる必要がありますので注意してください。

☆「商業」の免許状のみ取得を目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む35単位以上の修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。

[「道徳の歴史と方法」について]

「道徳の歴史と方法」の単位は、高一種免許状では「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てることができます。

人文社会科学部文化創生課程（中一種「英語」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	最低修得 単 位 数	備考および修得方法
英語学	○英語学A 言語文化論	2 2	2	・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。
英語文学	○英米文学A ○英米文学B ●文学基礎論A ●文学基礎論B	2 2 2 2	6	・科目名の前に「●」がある「文学基礎論A」および「文学基礎論B」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。
英語コミュニケーション	○グローバルコミュニケーション論A グローバルコミュニケーション論B ○英語コミュニケーションA ○英語コミュニケーションB ○英語コミュニケーションC ○英語コミュニケーションD 英語コミュニケーションE 英語コミュニケーションF	2 2 2 2 2 2 2	10	・各教科の指導法について受講の際には必ず「*1」「*2」の順番で受講してください。  ・修得すべき単位数については、下記「☆」印の部分をご参考になさってください。
異文化理解	○アメリカ・オセアニア地域学A ○アメリカ・オセアニア地域学B	2 2	4	
各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）	○英語科教育法*1 ○英語科授業論*2 ○英語科教材論 ○英語科教育方法論	2 2 2 2	8	
合 計			28単位 以上	←この他、さらに3単位以上を修得して「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる必要があるので注意してください。

☆中学校の免許状取得を目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む31単位以上の単位修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。

（上記表の必修科目の総単位数は30単位（選択必修はどちらか一方を修得したと仮定）となります）



人文社会科学部文化創生課程（高一種「英語」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	最低修得 単 位 数	備考および修得方法
英語学	○英語学A 言語文化論	2 2	2	・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。
英語文学	○英米文学A ○英米文学B ●文学基礎論A ●文学基礎論B	2 2 2 2	6	・科目名の前に「●」がある「文学基礎論A」および「文学基礎論B」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。
英語コミュニケーション	○グローバルコミュニケーション論A グローバルコミュニケーション論B ○英語コミュニケーションA ○英語コミュニケーションB ○英語コミュニケーションC ○英語コミュニケーションD 英語コミュニケーションE 英語コミュニケーションF	2 2 2 2 2 2 2	10	・各教科の指導法については受講の際には必ず「*1」「*2」の順番で受講してください。  ・修得すべき単位数については、下記「☆」印の部分をご参考にしてください。
異文化理解	○アメリカ・オセアニア地域学A ○アメリカ・オセアニア地域学B	2 2	4	
各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）	○英語科教育法*1 ○英語科授業論*2 英語科教材論 英語科教育方法論	2 2 2 2	4	
合 計			24単位 以上	←この他、さらに11単位以上を修得して「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる必要がありますので注意してください。

☆高等学校の免許状のみ取得を目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む35単位以上の修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。

（上記表の必修科目の総単位数は26単位（選択必修はどちらか一方を修得したと仮定）となります）

☆中学校の免許状を同時に目指す場合、中学校の取得条件を満たしていれば単位は不足しません。

[「道徳の歴史と方法」について]

「道徳の歴史と方法」の単位は、高一種免許状では「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てることができます。